

いつも市民の目線で!!

“山さんのホームページ”

www.k-yamasan.com

寝屋川市議会議員

山崎 きくお



平成20年5月号 (第59号)

5月臨時市議会の日程

2日(金)	議会運営委員会
12日(月)	本会議(第1日)
13日(火)	本会議(第2日)
14日(水)	本会議(第3日)

※ 5月臨時市議会の主な内容は、議長・副議長・監査委員の選出、各委員会の構成などです。
しかし、各会派の思惑もあり、スムーズに進行しないことがあります。

国会では、昨年七月の参議院選挙で与党(自民・公明)が大敗し、衆参両院のねじれ現象が国政を混乱させています。

国政はどうなるの?

昨年四月の統一地方選挙から丸一年が経ちました。しかし、いま政治は一つ大きな変革期を迎えようとしています。

改めて政治を考えよう

変革期を迎えた政治

一方、年金問題や道路特定財源のムダ使い、後期高齢者医療制度の不手際などが次々と明らかになり、国政は益々混乱を増しています。

府政はどうなるの?

また、今年一月の大阪府知事選挙で初当選した橋下知事は、「財政非常事態宣言」をして、四ヶ月の暫定予算を組み、府改革プロジェクトチーム(PT)を編成して、財政再建の具体的な内容を検討しています。今後とも関心をもって、府の動きを見守る必要があります。

市政はどうなるの?

そして、市政は少なからず国・府の影響を受けるこ

とは否定できません。しかしながら、今後とも独自の行財政改革を推進し、真の「住民自治」を実現することが大切です。

市民が町づくりの主役

寝屋川市では、今年四月から「みんなのまち基本条例」を施行しました。

- ① 市民がまちづくりの主役であること。
- ② 市民、議会、行政の役割を明確化し、協創してまち

議会改革も重要課題

議会改革を進めるにあたって、議員定数の削減などの「議会改革」も重要な課題です。

- ① 議員定数の見直し
私ども市民派議員団は、以前から「4人削減」を提案しています。

- ③ 十分な対話のもとで、市民参画・協働を進め「みんなのまち」寝屋川をつくりあげること。
などを謳っています。

- ② 議会のテレビ中継
特に、議会開催中は市役所ロビーなどでテレビ中継を早急に実施すべきだと主張しています。
- ③ 政務調査費の透明化
使途基準の明確化と一円以上の領収書添付、市民への公開を主張しています。

第27回 山さんのミニ市政報告会

○とき 5月24日(土) 午後7時30分～

○ところ 大利町公民館

◎どなたでもお気軽にご参加ください!



市長市政運営方針に対する 山さんの代表質問

私は、三月定例市議会でも市民派「新しい風」議員団を代表して、市長の平成二〇年度市政運営方針に対し、次の主旨の代表質問を行いました。

一・大阪府の暫定予算と寝屋川市の影響について

【山さんの質問】

橋下徹大阪府知事の「財政非常事態宣言」による四ヶ月の暫定予算により、市はどのような影響を受けるか。

【市長答弁】

本市への府支出金は、一般会計約四五億円、特別会計約三〇億円であり、そのうち国庫支出金を伴わない大阪府単独補助による支出金は約八億円となっています。

本市としては府支出金を財源とする事業については暫定執行も視野に入れて適切に対応してまいります。

また各市とも連携して、所要の予算措置が行われるよう府に働きかけていきます。

二・道路特定財源の見直しと寝屋川市の影響について

【山さんの質問】

いま国会では、ガソリン税等道路特定財源の暫定税率の維持か見直しかについて論議されているが、本市に及ぼす影響等について、市長はどのように考えているのか。

【市長答弁】

暫定税率が廃止された場合、本市では約四億円の歳入が減少すると試算しています。



私はいつも市民の目線で政治活動を行っています

また、現在進めている都市計画事業等の進捗が懸念されるなど本市の行財政運営に大きな影響を及ぼすものと考えています。

そのため、全国市長会等を通じて、暫定税率の維持と特定財源としての制度維持を要望しているところです。

三・廃プラ中間施設の契約問題について

【山さんの質問】

クリーンセンター内にある廃プラ中間施設の契約問題は、一億円もの売買があったにもかかわらず、契約書も作成されず、決済書類もなく、議会手続きも経ていない。

市長の言う「透明度の高い行政」と大きく反するのではないか。

【市長答弁】

この施設の設置に際し、事務処理上好ましくない取り扱いがあったのは事実で、平成一七年度中に全て是正し、以後適正な処理をしています。

山さんのコラム

誕生日は親に感謝する日

五月十二日は私の誕生日である。昔から「誕生日は、親の恩に感謝する日」という。私の父は九年前に満八三歳で、母は昨年三月に満八八歳で天寿を全うした。母は父が亡くなってから、少し認知症の症状が開始したため、富山の高齢者介護施設でお世話になっていた。

施設の職員さんのお話では、地元の選挙がある度に「菊雄の選挙はどうだったか」と尋ね、職員さんが「息子さんは大丈夫だったよ」と答えると笑顔でとても嬉しそうな顔をしていたと言う。何歳になっても、認知症になっても、死ぬ間際まで、息子のことを心配してくれていた親というものは本当にありがたいものである。あれからもう一年余りが過ぎた。改めて、親の恩に心から感謝したい。